



新制度を含めて NISA制度を 正しく理解しよう!

2024年1月からスタートする新NISA。ここでは現行のNISA制度を踏まえながら、新NISAについて整理する。

木内清章 産業能率大学講師

1 新旧NISA制度の 概要を押さえよう

今 年度は、お客様に対して新しいNISA制度の説明をする機会がかなり多くなると予想される。新制度は現行制度を改良したものであるため、現行制度との比較によって説明していくことが

効果的だ。

特にこれまでNISA制度を利用してこなかったお客様には、現行制度の要点から説明する必要があるだろう。以下では、新旧NISA制度のポイントを整理していく。



NISA制度とは何か

日 本のNISA制度は約10年前、英国のISA (Individual Saving Account) を模範として作られ、日本(N)版なのでNISAと呼ばれている。資産形成のためには、じっくりと長期間保有し、ある一時の買い値に左右されないように分散投資を重ねていく投資方法が大切である。

NISAとは、この投資方法をサポートするために生まれた非課税投資枠といえる。



現行のNISA制度の概要

現 行のNISA制度には、毎月定期的に積立を行っていく「つみたてNISA」年40万円と、そこまで規則的なやり方はせず任意のタイミングで投資できる「一般NISA」年120万円の2つがある。つみたてNISAは2018年から新たに導入された。

一般的な積立定期預金と比較した際の現行のNISA制度の特徴は、⑦つみたてNISAにおいて月々の引落しができなかった場合は、当該月は投資しなかったものとして

取り扱われる(事後的に入金を行うことはない)、①NISAは毎年、取扱金融機関を変更できるという2点だ。つまり、NISAでは、あくまでも毎年の投資枠はその年で独立した別々のものと認識するのである。さらに現行のNISA制度では、毎年つみたてNISAと一般NISAのどちらかを選択することもできるが、重複利用はできない。新制度では、この「毎年どちらかを選択」という点が改良される。



では、各項目について詳しく見ていこう。

①については、つみたてNISAは「つみたて投資枠」、一般NISAは「成長投資枠」となる。新制度では、この2つが併用できるようになるため、例えば「毎月規則的な投資を基礎として、マーケット下落時にスポット的に成長投資枠を利用する」といった投資スタイルが可能となるのだ。

次に②について、新制度の年間投資枠は、つみたて投資枠が年120万円、成長投資枠が年240万円まで拡大す

る。枠は併用可能なため、最大で合計360万円の投資枠を毎年利用することができるようになる。また、非課税保有限度額は生涯で1800万円までに拡大される。そのうち成長投資枠の上限が1200万円までとなっている。2つの枠を毎年最大まで利用すると、5年で1800万円の非課税保有限度額を使い切ることになる。単純な計算だが、つみたて投資枠が「年120万円×5年=600万円」、成長投資枠は「年240万円×5年=1200万円」という形だ。

ポイントは、つみたて投資枠の上限が1800万円となっていることだ。「600万円+1200万円」の内訳を、例えば「つみたて投資枠1000万円+成長投資枠800万円」のように調整できる。逆に、成長投資枠が1200万円を超えようような比重の構成はで



新NISA制度のポイント

新 しいNISA制度は、次の①~④を軸にして

①つみたてNISAと一般

NISAを、毎年同時に併用できる

②それぞれの年間投資枠、および非課税保有限度額が拡大